

---

# ULTRAMAN SONS ~ウルトラの継承者たち~

UFZK

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ULTRAMAN SONS 〜ウルトラの継承者たち〜

### 【Nコード】

N6454Y

### 【作者名】

UFZK

### 【あらすじ】

地球に現れたウルトラマンが一人しかいなかったある世界の地球。

一応の平穏を保っていた世界に再び降り立つ脅威。

次元の壁を越えて、戦士の息子たちは出会い、立ち向かう。

ウルトラマンゼロ The Another Tale LY

RICAL FORCE ZERO とリンクしています。

更新は超不定期です。

本家『ULTRAMAN』がまだ始まったばかりなので。

## プロローグ

かつて、ある世界の地球では、星の各地からあらゆる常識を超えた巨大生物の出現が頻発し、外宇宙からは、人と同等以上の知恵を持った知的生命体たちによる侵略に晒された時代があった。

地球人たちは内外の脅威たちに毅然と、ギリギリまで、最後の最後まで、諦めずに立ち向かったが、力及ばずな状況に追い込まれることが少なくなかった。

そんな時、どこからともなく現れ、人々の窮地を救い、多くを語らずに、どこへともなく去っていく巨人がいた。

『彼』が、活躍していた時代から、数十年後の地球。

東京のどこかにあるとあるビル群。

そのビルの一つの屋上。

そこに腰かける人が一人。

見た目は、10代半ばの少年。

黒髪を肩まで伸ばし、ポニーテールにして一纏めに縛り。

整っているが、吊り目なせいで不機嫌そうなオーラと近寄りがた

さを感じさせている。それと同時に凜とした雰囲気も漂わせる顔立ちをしていた。

その左手の中指には、青白く光る光沢を埋めた銀の指輪がはめられている。

長髪が似合う容姿と指輪を除けば、一見するとただの日本人だ。

ただ、今彼が座っている位置を見れば、普通じゃないと感じる人が多いだろう。

なんせ彼は、屋上のフェンスの向こう側、一歩間違えば地面に堕ち、あの世に真ッ逆さまな危険地帯に座っている。

足も地に着かず、宙にぶらついている。

恐怖で立ちすくむ危険地帯に、彼は命綱も無く視界に写る街街を眺めていた。

その様子を見たものの大半は、命知らずの大うつけと印象付けるだろう。

だが、見た目は日本人な彼は、純然たる地球人では無かった。

彼は、とある任務で、この地球とは違う異世界から来た来訪者だった。

「（あの人と一体化してたっつー地球人の息子を探してくれ、とは頼まれたけどな……）」

心中呟きながら、溜め息がこぼれ、風に流されていく。

彼がこの地球に來た理由は二つ。

一つは、この世界の地球に降りかかる脅威からこの星を守ること。

もう一つは、彼の先輩とも彼の父親の盟友とも言える戦士と一心同体となっていたという人間の息子を探し、彼と協力してほしいということだった。

その一心同体となった人間の所在は実のところすぐ見つかった。

なんせ、この国ではかなりの有名人だ。

かつてはある組織の基地で、今は記念館になっている施設を訪問すれば、その組織の隊員であった彼の若き日の写真をみることもできるし、現在は大臣に就任したこともある政治家であったからだ。

まあだからと言って、その人の息子と簡単に会えるはずもなく。

今のところ、きな臭いものを感じる『航空機爆破事故』が一つあった以外は、この日本は怪獣も出ず、侵略を企む異星人もいない、平和そのものだった。

まあはつきり言えば途方に暮れ、気晴らしにと街の喧騒を眺めていたのである。

まあ……ずっとこうしてもいられねえか……

気分を入れ替えて、彼がその身を立ち上げさせたその時……

彼は視界に写った人影に視線を固定させられた。

ビルの上に人がいる。

それはまだ良い、自分みたいに高所から景色を眺めているのが好きな人だっている。

だが、彼の眼に映っているのは、明らかに異常な状況だ。

見た目年齢なら、人間態である今の自分と同年代の日本人の少年が、自分と同じ、一歩踏み外せば地に一直線な位置に佇んでいる。

人外な自分が言うのもあれだが、投身自殺でもするつもりか？

そう思った直後だった。

その日本人の学生が………跳  
んだ。

その身は流麗な放物線を描きながら、向つのビルへと綺麗に向か  
って行く。

その光景に目が点になっていた彼は周りに人がいないか目を青く光らせながら見回し、確認すると、足を曲げて力を入れると、跳び上がった。

先程ビルからビルへと跳んだ少年も常識破りだが、この少年も負けず劣らずだった。

オリンピックどころか、永遠に破られることのないギネス記録を叩きだしてしまうレベルの飛距離を叩きだしながら、虹の軌道を描いて、学生が跳んで行ったビルへと降りていく。

慣性の法則で、その身をスライディングさせながら、彼は無事に着地した。

屋上を見回ってみるが、こちらに跳んできたはずのどこかの学校の制服を着ていた少年は、もうこの場にいなかった。

幻覚でも見たのか？と疑りたくはあるが、自分が今降り立った際にできたのと同じ、何らかの物体に擦り切れた跡があるコンクリートの地面が、夢幻であることを否定させる。

自分にとっては造作も無いが、地球人にとっては異常とみなされる芸当を行った地球人の少年。

間違いない、彼があの子だ。

かつて、異星人と怪獣から、地球を守り抜いた光の戦士。



ウルトラマン。

その彼と同化していた地球人。

ハヤタ・シン。

その人の一人息子である、ウルトラマンの因子を受け継いだって  
いう地球人の少年。

ハヤタ……………シンジロウ。

しかし……………地球人の血も流れているウルトラ戦士の子か……………

まるで鏡で自分を見ているようだ。

なんせ自分も、地球人の母を持つ。

『ウルトラマン』

の息子であるからに。

そう、彼の……ウルトラマンとしての……その名は……

ウルトラマンゼロ。

こことは違う次元から来た、若きウルトラ戦士その人だった。

これは、彼とその仲間が、とある魔法が普及した世界で織りなす物語の空白期に位置する物語である。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6454y/>

---

ULTRAMAN SONS ~ ウルトラの継承者たち ~

2011年11月19日20時29分発行